

は じ め に

博物館の使命には、資料の収集と保管、歴史や文化財の調査と研究、資料の展示・公開と普及・活用といった様々な業務があります。なかでも資料の収集と整理業務は、博物館活動にとって基礎的でかつ重要な作業です。横浜
市域および周辺地域の歴史や文化財の調査研究・収集保管・展示公開などを
目的とする当館でも、資料整理には力を入れて取り組んでまいりました。

その成果として、当館ではこれまでに、『横浜市歴史博物館資料目録』を
第 31 集まで刊行しています。そしてこのたび、第 32 集として、武蔵国都
筑郡長津田村（現在の横浜市緑区）の名主であった河原家文書の目録を刊行
いたします。

河原家文書はすでに横浜市歴史資料研究会による「横浜市内歴史資料実態
調査」の成果をまとめた『横浜市史料所在目録 第 7 集 緑区』（横浜市総
務局編刊 1982(昭和 57)年）として公刊されています。2023(令和 5)年に同家
資料は、所蔵者の河原良雄氏より当館に寄贈されました。このたび当館寄贈
分の整理を改めて進め、その成果をふまえ、また新出資料をふくめた目録と
して公開いたします。

貴重な資料をご寄贈いただきました、河原家の皆様に感謝申し上げます。

また横浜市歴史博物館では、次集以降も、当館が所蔵・保管する市域およ
び周辺地域に関する資料について、順次調査・整理を進め、目録を公開して
まいります。広くご活用いただけたら幸いです。

2024(令和 6)年 3 月

横浜市歴史博物館

館長 佐 藤 信

凡 例

- 1 ここに収録した資料の目録は、令和 5（2023）年に当館に寄贈された武蔵国都筑郡長津田村（現在の横浜市緑区）の河原家文書を、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 横浜市歴史博物館が整理・調査した結果をまとめたものである。
- 2 本資料の目録は、すでに横浜市歴史資料研究会による「横浜市内歴史資料実態調査」の成果をまとめた『横浜市史料所在目録 第 7 集 緑区』（横浜市総務局編刊 昭和 57(1982)年、以下「史料所在目録」）にまとめられている。資料の分類・番号は、原則として同書に倣った。今回資料整理をするにあたり、下記 5 点の改変を行った。
 - ① 「冊」から「地頭所よりの年賦金に付出入一件」までの 15 項目については、(1.「冊」、2.「状・支配」、3.「村政」、4.「村況」、5.「戸口・人別」、6.「土地」、7.「租税」、8.「凶災救恤」、9.「商業金融」、10.「証文」、11.「水利」、12.「林野」、13.「助郷・交通」、14.「寺社」、15.「地頭所よりの年賦金に付出入一件」)各項目に 1 から 15 までの番号を付した。
 - ② 1.「冊」から 15.「地頭所よりの年譜金に付出入一件」までの 15 項目については、「史料所在目録」の記述に従い、目録を編纂した。資料の整理番号は基本的に「史料所在目録」の記述に従っており、資料の欠落や移動についての注記は、備考に記した。
 - ③ 新出の文書資料については、新たに項目を作り、16.「追加文書」の項目で整理した（88 件 105 点）。
 - ④ 和装本・刊本については、「史料所在目録」では「追加」及び「追加（刊本）」の 2 項目で整理されていたが、今回新出の資料が多かったため、17.「書籍」として再整理した。ここでは、「史料所在目録」の資料番号にはよらず、資料の刊行年により編年に並べ直し、新たに資料番号を付与した(68 件 103 点)。
 - ⑤ 今回新出資料として軸物・書も整理したが、それらは 18.「軸物・書」に記載した(25 件 30 点)。
- 3 資料の排列も、「史料所在目録」に倣った。排列は、原則として編年順であるが、必ずしも編年順に配列していない場合もある。
- 4 原則として文書の原題を表題とし、原題のないもの、原題のみでは内容が判然としないものは、（ ）を付し仮表題および補題をつけた。
- 5 年代が明示されていないもので、内容などから推定できるものは、[]内に推定年代を付けた。
- 6 形態は文書の物質的形状により、冊・綴・状等に分類した。
- 7 本書に掲載する河原家文書の整理は、石崎康子、鈴木美奈子による。編集は仲泉剛（当館学芸員）が行った。

資料解説

本目録『横浜市歴史博物館資料目録 第32集』は、令和5(2023)年に河原良雄氏より横浜市歴史博物館へ寄贈された武蔵国都筑郡長津田村の河原家文書を所収する。同家文書は、421件(496点)を数え、近世から近現代にかけての緑区域の歴史を知ることができる貴重な資料群である。

資料の所蔵者である河原家は長津田村(現在の横浜市緑区)の名主をつとめた旧家である。資料年代は近世から昭和期まで多岐にわたり、凡例で述べたように、同家に残された資料については、横浜市歴史資料研究会による「横浜市内歴史資料実態調査」の成果をまとめた『横浜市史料所在目録 第7集 緑区』(横浜市総務局編刊 昭和57年(1982))にまとめられている。また、『緑区史』などの自治体史にも資料が複数掲載されている。

長津田村は、近世を通じて旗本岡野氏が知行した。村内の大林寺は旗本岡野氏の菩提寺であり、旗本岡野氏歴代墓所は現在も同寺にある。家数・人数は、慶応3年(1867)176軒・926人(『横浜市史』第1巻)。村高は、1097石(「旧高旧領取調帳」)。矢倉沢往還(大山街道)の宿場に指定され人馬の継立てを行った。

長津田村に関する文書としては、文禄3年(1594)の検地帳を挙げておきたい(1.「冊」1)。これは、緑区内に現存する最も古いものとして知られている。また、幕府や領主からの触書を写した御用留の類も多数伝来する。享保期に記された「享保雜記」(1.「冊」6)や幕末期に書かれた4分冊からなる「御親征御用留」(1.「冊」36-2~36-5)は当該地域の歴史を考えるうえで貴重な資料であろう。

河原家が名主役となった文政2年(1819)以降、同9年まで日記を記しており(1.「冊」13-1~13-5)、名主役の業務をうかがい知ることができる。また、時代が下って慶応3年(1867)に記された「御用向取扱留」(1.「冊」47)では、1年間の名主の業務や村で起きた諸事件などが記録されており、当時の名主の仕事内容や日常生活について知ることができる。

その他、文政期に起こった地頭所よりの年賦金に関する一件文書(15「地頭所よりの年賦金に付出入一件」)が比較的まとまっている。領主財政の実態を示す重要な資料である。

横浜市歴史博物館資料目録 第32集

発行日 令和6年3月

発行者 (公財)横浜市ふるさと歴史財団

横浜市歴史博物館

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央 1-18-1

TEL 045-912-7777(代)